

1. 神とは？

「神」について知ることができるのでしょうか？

「神」と聞くと、日本人である私たちは、目には見えないけれど、遠くから私たちを見ておられ、私たちが必要な時にだけ呼び求める、そんな対象としてとらえがちではないでしょうか？「あなたの宗教は？」と聞かれる時、多くの日本人は「仏教です」と答えますが、神社へ初詣へ行ったり、七五三のお祝いをしたり、神道の慣習も大切にします。さらには、クリスマスをお祝いし、結婚式はキリスト教式で挙げたりします。日本のほとんどの葬儀は仏教式で執り行われます。これはまさに八百万(やおよろず)の神々を崇拝する多神教の姿であり、必ずしも信仰に基づいての儀式だとは限らず、伝統や文化を重んじる習慣によるものです。

最善を尽くして説明したとしても、完全とは言えませんがそれなりの神についての理解がどのような文化においてもあります。神を知る旅は、神が存在する、という可能性にまず心を開くことによって始まります。この最初のステップがなければ、神に出会い、神を知っていくことは難しいでしょう。

一般的に、神については、「自然界」、「摂理(物事のすじみち)」、「啓示(神によって示されたこと)」という3つの方法で学ぶことができます。「自然界」においては、神様によって造られた美しさと壮大さが見られます。宇宙の素晴らしさや、人間の心の深さ、生命の価値をも見ることができます。「摂理」においては、宇宙には始まりがあり、無からは何も生まれず、その生命は奇跡的に複雑なものだと理解できます。最後の方法である「啓示」とは、神様のご自身について人間に語られたことです。それは神について学ぶ最も正確な方法であり、聖書を通して理解することができます。

神はご自身がどのような方だと言っておられるのでしょうか？

聖書を通して、神様はご自分がどのようなお方か示されました。神様には「永遠」という性質があります。なぜなら、神様は宇宙ができる前から、いつも存在しておられるからです。

神様は「聖」なるお方です。それは、単に神が良いことをされているというだけでなく、あらゆる点で「純粹」で「完璧」だからです。神様は「善」の基準を造られた方であり、神様には悪や間違いはありません。完全な神聖さのために、神様は不純や邪悪さを持つことはできません。神様は「全知全能」のお方です。私たちの行動の背後にある思いや動機も「すべてご存知」です。神様は「あらゆるところに存在」でき、1度に1つの場所だけに限られることはありません。

神様はこの宇宙とそこにあるすべてのものを創造された方です。神様はご自身との関係を持つために人を創造し、溢れるばかりの愛をもって私たち一人ひとりを造られました。神様は私たちの天の父です。神様は信頼に値するカウンセラーであり、私たちの人生のガイドです。また神様は知恵の源です。神様は私たちの必要を完全に満たすことができます。神様は愛です。神様の「ゆるし」には限界がありません。神様は私たちが他者への助けとなれるように、まず私たちを豊かに祝福して下さいます。(神の特性についての詳細は、後部付録を参照。)

けれども、「神について学ぶこと」は、「神を知ること」とは違います。「神を知ること」への道のりは、まず神と個人的に出会うことによって始まります。

考えてみよう

「神」に対してイメージが変わりましたか？ 聖書を通して、神様がどのようなお方なのか、はっきりと知ることができます。神様は生きておられます。ただそこにいるだけだったり私たちの願いに耳を傾けているだけではなく、日常の中で力強く働いておられます。個人的に神様に出会うなら、あなた自身とあなたの周りの人々のためにも、神様に造られた目的を果たすことができる最善の自分になるための道を歩み始めることができます。

次の「2.人間とは」では、人は神にとってどのような存在なのかについて学びます。

